

奥武蔵

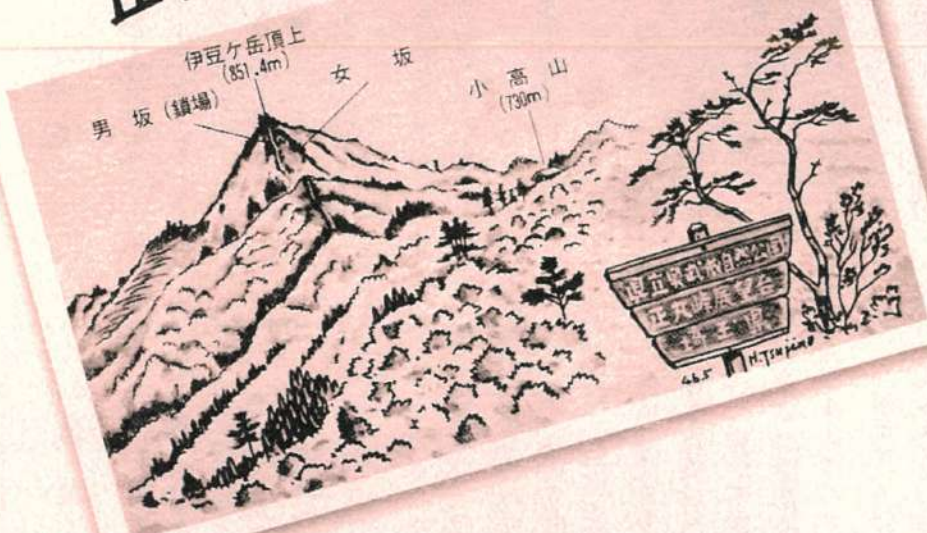
459

奥武蔵研究会

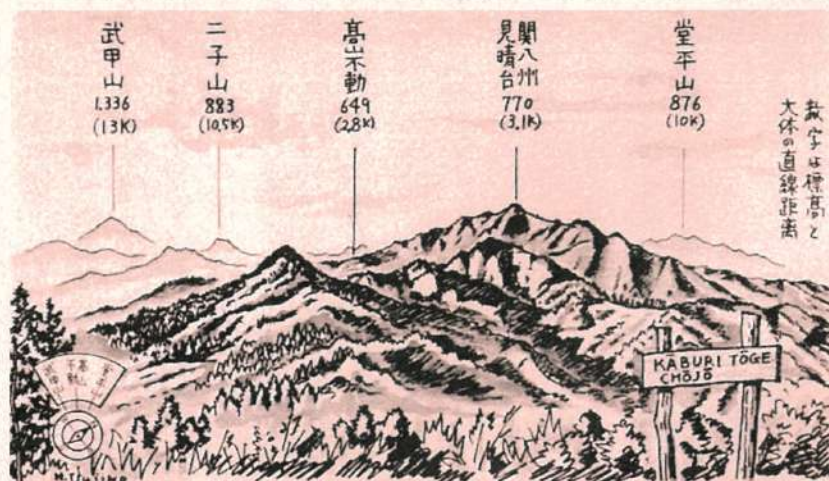
2025年(令和7年)1月

正丸峠展望スケッチ

正丸峠頂上展望台より伊豆ヶ岳方面



顔振峠展望スケッチ



辻野広司氏描画絵葉書作品

三四半世紀の時を越えて

小泉 重光

謹賀新年 明けましておめでとうございます。近年の温暖化により春と秋が無くなってしまったので、季節感が感じられなくなつたという話を耳にします。奥武蔵や秩父地方では秩父の夜祭りを過ぎると雪が降るといわれていましたが、何時しかそんな話も聞こえなくなりました。じつのところ、深夜に舞い降りた雪が林道などの人工物を覆い隠し、早朝のちよつとした雪山ハイクの気分を味わえる奥武蔵の静かな山々に密かな期待を抱いてはいるのですが、ここ数年はずっと裏切られ続けてしまっています。ともあれ、会員の皆様には奥武蔵や秩父の山々を各々楽しんでいただければと思いますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

近頃、奥武蔵や秩父を歩いて、つくづく山上集落も過疎化してしまつたなあと感じます。とくに若者の流出が顕著になっており、お年寄り達がいなくなつてしまつたら、廃集落になってしまうことは疑いようありません。また、同時に山村に暮らす人々の連帯感もコロナ禍を挟んで随分と希薄になつてしまつたように思います。けれど振り返りみれば、都会でもそんな先行き不透明な事象はどうにも顕在化してはいたわけですから、時代の流れというほかありません。

さて当会の歴史も三四半世紀となりました。高齢化による執筆者や山行の減少等により、やむを得ず会報も前年度より年四回の発行とさせていただきましたが、奥武蔵や秩父を歩き続け、そして記録し続けてきた75年間。頁数にするとその量は膨大で、当初は鄙びた山村を謳歌する言葉で溢れていましたが、やがて高度成長期に入りダムやゴルフ場、あるいは林道が建設されるに及び、山々が無残に削られることを嘆く記事も散見されるようになりました。いわば諸先輩の嘆きが山々の悲痛な叫びでもあったわけですね。個人的には先ゆきが不透明な時代だからなおのこと、翻弄されること無くこたわり続けたい奥武蔵や秩父なのです。

目次 第459号 令和7年1月

三四半世紀の時を越えて	小泉 重光	表2
妻坂峠越え		
牧水の足跡を追う	加藤 恒彦	1
日本通貨発祥の地「和銅遺跡」を歩く	中塚 智恵美	4
陸測図にみる在りし日の伊豆ヶ岳周辺	小泉 重光	5
伊豆ヶ岳バラガ平尾根	小泉 重光	8
伊豆ヶ岳	岡野 守	10
長岩峠から川越山	高橋 澄夫	10
報 駒高の座禅岩	吉田 美知子	11
行 深大寺	岡野 守	12
山 10月の山行集会「読図山行・鐘撞堂山」	村木 悦子	12
武甲山	高橋 澄夫	14
12番札所 野坂寺から琴平丘陵	吉田 美知子	14
24年度 河田賞		18
24年度 山行賞		19
山行計画	会務報告	20
新年集案案内	奥武蔵情報	21

奥武蔵 第 459 号
令和 6 年 12 月 20 日 発行

印刷所

株 ヌーベル社

成 川 茂 雄

加 藤 恒 彦

小 泉 重 光

編集者

〒 175-0092 東京都板橋区赤塚 7-18-7

発行所

奥武蔵研究会

発行者

小 泉 重 光

